



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

研究シーズのバーチャル展示会を開催しました！ テーマは「観る」と「創る」

～宇宙の起源や、地球温暖化防止策を探る～

関西学院大学は、理系3学部（理・工・生命環境学部）による研究成果の一端を「観る」「創る」というテーマで紹介する「研究成果バーチャル展示」を4月1日から5月31日WEB上で行ないました。「観る」では観測機器や計測機器を駆使し、「これまで見るができなかったものを観る」という観点で取り組む研究を、「創る」では電子デバイス等への展開が期待される新規材料の開発や、次世代エネルギーシステムの構築を目指す大容量蓄電池の開発など地球温暖化対策に繋がる研究をそれぞれ8件ずつ取り上げています。ここで展示している研究成果は、国家プロジェクトに関わるものから萌芽的なものまで幅広いフェーズのものですが、どれも知的好奇心をくすぐるきらりと光るものです。現在も下記URL、またはコードからアクセス頂ければ、展示内容をご覧頂けます。

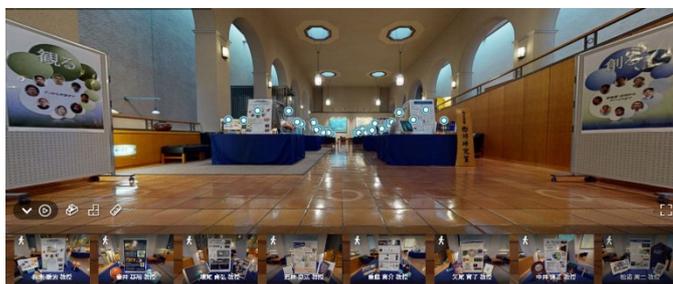
「観る」：ナノから宇宙まで

 <p>【生命環境学部】谷水 晋治 教授 いろいろな無機元素が高圧から大気圏までの地球内部部分の中でどのように振舞っているかを究明する研究</p>	 <p>【生命環境学部】岩井 基裕 教授 花崗岩をターゲットに年代測定や化学分析からその成因を探っています。</p>
 <p>【生命環境学部】増尾 直弘 教授 これまでない新しいナノ物質を合成し、その性質を詳細に調べることにより、優れた光電特性を創発することを目的に研究を行っています。</p>	 <p>【工学部】若林 充法 教授 理論および計算科学手法を用いて、さまざまなナノスケール材料における電子物性を研究しています。</p>
 <p>【理学部】重藤 真介 教授 先端的な分光計測手法を駆使し、液体・溶液中あるいは生きた細胞中の分子の振動スペクトルを測定、解析することによって、それらの分子がどのような化学・生命現象の駆動力を担っているかを明らかにしています。</p>	 <p>【生命環境学部】矢野 育子 教授 さまざまなイメージング手法を取り入れ、生体内の分子を可視化することにより、疾患の診断・治療に役立つような基礎研究に取り組んでいます。</p>
 <p>【理学部】中井 政正 教授 地上最長の天文観測施設にある高角速度回転から遠い宇宙を観る。</p>	 <p>【理学部】松浦 周二 教授 多外層の宇宙空間探査を視野に、これにより宇宙のはじまりや天体の結晶化の過程を探っています。</p>

「創る」：新物質・材料からデバイスまで

 <p>【生命環境学部】白川 英二 教授 導電性がよく、柔軟な社会機能に貢献する新しい材料を開発の発展を期待しています。</p>	 <p>【工学部】藤原 明比古 教授 次世代ディスプレイ材料としてランスタタの有機・無機、高圧二次電池への有機材料の研究を行っています。</p>
 <p>【工学部】吉川 浩史 教授 新しいナノ電機材料の創製により、高性能な蓄電エネルギーデバイスを開発を期待しています。</p>	 <p>【工学部】増尾 直弘 教授 新しい有機材料の創製により、高性能な蓄電エネルギーデバイスを開発を期待しています。</p>
 <p>【工学部】日比野 浩樹 教授 グラフェンに代表される層状二次物質とそれらを組み合わせたナノ材料を開発、革新的な電子デバイスへと応用することを目的としています。</p>	 <p>【工学部】松浦 周二 教授 最先端の分光計測技術を用いて、生体内の分子を可視化することにより、疾患の診断・治療に役立つような基礎研究に取り組んでいます。</p>
 <p>【工学部】田中 和久 教授 100年先のエネルギーシステムのプランニングと、それを実現するための革新的材料の開発</p>	 <p>【生命環境学部】松田 健介 教授 「高圧技術」：CO₂固定の主役、そして新しい材料とエネルギーの源</p>

○米国・Matter Port社の技術を採用
バーチャル空間に各ブースを配置。自由に動きまわることができます。興味を持ったポイントをクリックすると、研究者のWeb展示ページに入ることができ、研究室・論文などの情報も見ることができます。



○研究成果バーチャル展示の閲覧

URL : <https://www2.kwansei.ac.jp/kgresearch2021/>



特設サイトへ